

# 消化器内科で潰瘍性大腸炎診療を受けられた方へ

資料1-3

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する方で、ご自身の診療情報等を研究目的に利用して欲しくない場合には、恐れ入りますが下記の連絡先へお問い合わせ下さい。

2026年 4月 30日

① 対象者	2005年3月～2026年3月の間に、潰瘍性大腸炎でチオプリン製剤(アザニン、イムランまたはロイケリン)を使用した方			
② 研究課題名	潰瘍性大腸炎におけるチオプリン不応の予測因子に関する後向き研究			
③ 実施予定期間	倫理委員会承認後 ～ 2026年11月			
④ 実施機関	藤枝市立総合病院			
⑤ 研究実施者	氏名	寺井 智宏	所属	藤枝市立総合病院 消化器内科
⑥ 研究責任者	氏名	寺井 智宏	所属	藤枝市立総合病院 消化器内科
⑦ 使用する検体・データ	電子カルテ情報			
⑧ 目的	<p>一般に潰瘍性大腸炎寛解維持治療としてのチオプリン製剤の有効性は、本邦では古くから知られており、特に医療経済面と豊富な臨床的データから欠くことのできない製剤の一つとなっています。一方で、近年は潰瘍性大腸炎の診療状況が大きく変化してきており、生物学的製剤や低分子化合物の保険適応承認が相次いでおり、各製剤の適正使用が強く望まれる状況となりました。</p> <p>チオプリン製剤は、ステロイド依存例では特にその有効性が実証されていますが、一方でステロイド抵抗例での治療成績は芳しくなく、予め有効性の予測がつけば実臨床での製剤使用に一定の方向性が期待できる形となります。</p> <p>本研究では、潰瘍性大腸炎でのチオプリン不応（有効性がないこと）の予測因子を明らかにすることで診断・治療の一助とすることを目的としています。</p>			
⑨ 方法	<p>当院で潰瘍性大腸炎と診断され、チオプリン製剤を使われた患者さんの診療録から必要な情報を事務局で収集し、解析を行います。新たに追加検査を行うことはありません。</p> <p>本研究への参加は患者さんの自由意思であり、参加しなくとも不利益はありません。</p>			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2026年 3月 24日		
	病院長承認日	2026年 3月 24日		
⑪ 公表	研究成果は学会や医学論文などに発表されることがあります。			
⑫ プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報を使用しません。			
⑬ 知的財産権	本研究により生じる特許、その他知的財産に関する権利（特許権）は、研究者に属します。			
⑭ 利益相反	本研究は企業との共同研究ではなく、企業からの資金提供もありません。			
⑮ 問い合わせ	連絡先	消化器内科	電話	054-646-1111（代表）
	<p>事務局で、お問い合わせ内容をお伺いいたします。</p> <p>後日、あらためて研究者より直接回答いたします。</p> <p>※情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、恐れ入りますが2026年10月31日までにご連絡をお願いします。</p>			

本研究のノウハウやアイデアに関する情報については公開できませんのでご了承下さい。

病院長

